

期 日	令和7年11月17日(月) 13:00～17:00		
会 場	岩見沢市民会館まなみーる(岩見沢市9条4丁目1番地1)		
日 程	<p>12:30受付</p> <p>13:00 開会式</p> <p>(1) 開会式</p> <p>① 開会の言葉</p> <p>② 主催者挨拶 北海道公立学校教頭会 事務局長 三 浦 祐 大</p> <p>③ 主管者挨拶 北海道公立学校教頭会 第4ブロック長 大 島 恵 一</p> <p>④ 来賓祝辞 北海道教育庁空知教育局 局 長 金 田 敦 史 氏</p> <p>(代読: 次 長 北 川 伸 之 氏)</p> <p>⑤ 来賓紹介 北海道教育庁空知教育局 次 長 北 川 伸 之 氏</p> <p>空知管内市町教育委員会教育長会会長 吉 永 洋 氏</p> <p>空 知 地 区 校 長 会 会 長 小 玉 剛 氏</p> <p>⑥ 閉式の言葉</p> <p>13:30 研究協議</p> <p>(2) 研究協議</p> <p>① 北海道公立学校教頭会活動方針及び活動報告について</p> <p>○ 一般会務報告 事務局長 三 浦 祐 大</p> <p>○ 要請活動報告 事務局長 三 浦 祐 大</p> <p>○ 会計中間報告 事務局長 三 浦 祐 大</p> <p>○ 研修部報告 研 修 部 中 村 隆 城</p> <p>○ 組織部報告 組 織 部 今 野 信 彦</p> <p>○ 調査部報告 調 査 部 青 木 啓 洋</p> <p>○ 広報部報告 広 報 部 岡 本 功 一</p> <p>② 各地区教頭会報告</p> <p>○ 日高地区教頭会 研究部長 鳥 潟 直</p> <p>○ 胆振管内教頭会 研究部長 村 井 淳 一</p> <p>○ 空 知 教 頭 会 研修担当 鹿 糠 昌 弘</p> <p>③ 全体協議</p> <p>14:25 講演</p> <p>(3) 講演</p> <p>① 講師紹介 空知地区教頭会研究担当 大 崎 淳 悟</p> <p>② 講 師 元札幌テレビ放送アナウンサー 大 家 彩 香 氏 (合同会社 おおいえ)</p> <p>演 題 「伝える力が未来を創る」</p> <p>③ 謝 辞 空知地区教頭会組織部員 川 村 晶 子</p> <p>15:50 グループ内交流</p> <p>(4) グループ内交流</p> <p>「学校における危機管理について、教頭としての関与」</p> <p>進 行 空知教頭会研修担当 鹿 糠 昌 弘・大 崎 淳 悟</p> <p>16:45 閉会式</p> <p>(5) 閉会式</p> <p>① 開 会 の 言 葉</p> <p>② 主 催 者 挨 拶 北海道公立学校教頭会 第4ブロック長 大 島 恵 一</p> <p>③ 次期開催地主管挨拶 胆 振 管 内 教 頭 会 会 長 佐々木憲一</p> <p>④ 閉 式 の 言 葉</p>		
参加人数	<p>○ 来賓・講師 4名</p> <p>○ 北海道公立学校教頭会 5名</p> <p>三 浦 祐 大 (事務局長)、中 村 隆 城 (研修部員)、今 野 信 彦 (組織部員)、</p> <p>青 木 啓 洋 (調査部員)、岡 本 功 一 (広報部員)</p> <p>○ 空知教頭会 80名</p> <p>○ 胆振管内教頭会 27名</p> <p>○ 日高地区教頭会 9名</p> <p>合計 125名</p>		
その他	<p>○ 各地区教頭会からは、3Cの視点の取組について状況報告があった。</p> <p>○ 講演は「伝える力が未来を創る」と題して、人に情報等を伝えるときに心掛けている3点について御教授いただいた。1点目は「人と話す。コミュニケーション」を「積極的」に自分から取る、特に苦手な人と話すことが大切と言われていた。対面で話すことは「情報」だけではなく「宝の経験」を得られると強調されていた。2点目は「準備は120%」との思いが重要と言われていた。特に「もしも論法」で臨機応変な対応を実践していた。3点目は「視聴者に寄り添う」こと、特に「話す言葉選び」に気を付けていたことを強調されていた。最後に「情報」は「情けに報いる」ことなので「相手のためになることを伝える」こと、そして「全力の愛」で伝えることを心掛けていたと教えていただいた。</p> <p>○ グループ内交流では、2会場、24グループに分かれ、学校における危機管理について、組織的に運営していくために教頭としてどのように関与していくか。自校の現状を踏まえ、課題や取組の具体、今後の方策等についての協議を行った。クマ出没に対する対応や個人端末による撮影禁止の対応、個人情報取扱いなど様々な視点で積極的な交流を行っていた。</p>		

